

三股町教育研究所
所長（教育長）石崎 敬三

With コロナ時代を生きる

忘れもしない令和2年2月27日、安倍首相は記者会見において、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国の小中学校や高校などに一斉の臨時休業を要請すると表明しました。三股町においても3月2日から町立学校を臨時休業することとし、各学校は、その対応に御尽力いただきました。その後も、感染拡大防止や学びの保障のために、教職員を始め保護者の皆様など多くの皆さんに負担をおかけしています。あらためて感謝を申し上げます。

今回の臨時休業を通して、予期しない休業が、保護者の働き方や児童生徒の心身の健康保持に影響を及ぼしたことから、学校の存在の重要性が改めて深く認識されたものと考えています。

この原稿を執筆している時点では、東京都の新たな感染者数は連日100名を上回っており、隣県である鹿児島県では累計感染者数は150名以上に上っています。また、宮崎県においても、7月5日に新規感染者が発生し、その御家族2名の感染が確認されました。

今の状況を見ると、新型コロナウイルス感染は第2波の入り口に差し掛かっており、全国で人の移動が活発化する夏季休業の時期に爆発的な感染拡大を迎えるのではないかと感じています。治療薬やワクチンの開発も進められていますが、早期実用化の目途は立っていないようであり、私達は当分の間、新型コロナウイルスとともに生きていかなければならないことになります。

こういった中で、私たち教育に携わる者が最も心を砕いていかなければならないことは、児童生徒の心身の健康を保持していくことと、学びの保障をどのように行っていくかということです。文部科学省は、「GIGA スクール構想」に掲げる児童生徒1人1台端末の早期実現による双方向オンライン授業を学びの保障を支える手段としています。本町においても早期実現に向けて予算措置等の準備を進めていますが、1人1台の実現には一定の期間が必要です。

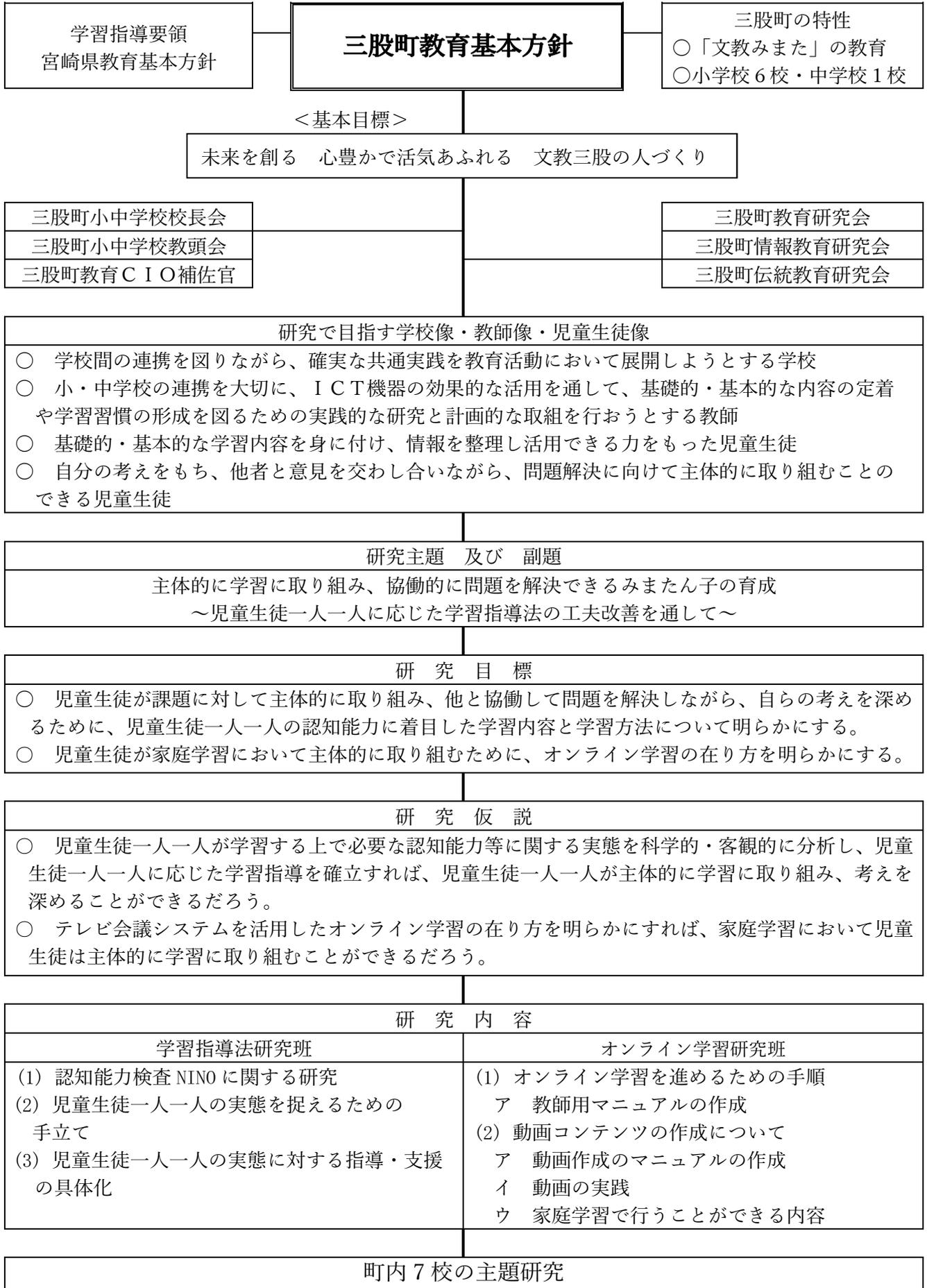
そこで、教育研究所では、既存のインフラも活用してオンライン学習を進めるべく「オンライン学習研究班」を設置しています。研究班では、「Zoom」を使ったオンラインでの指導方法や、効果的な動画の作成方法の研究を進めており、これまでに、小学校算数と体育、中学校数学及び小学校音楽の4本の動画を作成しました。また、現在、教育研究所の活動は2箇所に分れて行われていますが、最後のまとめは「Zoom」を使って行われています。

あってほしくはないことですが、もし第2波の感染拡大が起こった場合には、すでに配置済みの学習用タブレットはもちろんのこと、学校ホームページや電子メール、動画配信、SNS といった ICT の活用と、感染拡大防止策を講じた上での分散登校による対面での指導を組み合わせた「ハイブリッド教育」により、児童生徒・保護者と学校の絆をつなぎ、学びの保障を図っていければと考えています。

解決すべき課題もありますが、「すべてが揃わないと不可能」ではなく、「できることから取り組んでいく」という姿勢で、with コロナ時代に対応していきたいものです。



研究の全体構想



子どもたちに学習の機会の保障を

新型コロナウイルス第2波・第3波に備えて オンライン学習を進めてみませんか？

今年度、オンライン学習研究班では、新型コロナウイルス等による学校の臨時休業に備えて、「Zoom」を活用したオンライン学習について、研究を重ねています。現在、実践例の動画を作成しているところです。

オンライン学習のメリット

- ① 学校が臨時休業の際、子どもたちの健康状態などを確認できます。
- ② 不登校児童生徒の学習機会につながります。

教師と児童生徒をつなげるアプリ「Zoom」

まずは、Zoomのダウンロードをしましょう。

☆Facebook アカウント,Google アカウントがあれば簡単にサインインできます！



学校のタブレット
から読み取れる
QRコードです。

数回テストをして本番です。
簡単な指導過程を作成する



現在、児童生徒が自宅でも視聴できる、授業動画を作成しています。

認知能力検査「NINO」を御存知ですか？

今年度、三股町内の4つの小学校の3・4・5年生と中学校1年生で教研式 認知能力検査 NINOを実施しました。そこで、学習指導法研究班では、認知能力検査 NINOを生かした児童生徒理解について研究を進めています。今回は、認知能力検査 NINOについてご紹介します。

教研式 認知能力検査 NINO

○各教科の学び取った学力ではなく、学習を進める上で必要とされる**教科横断的な力**、「認知能力検査」を測り、授業や学習の改善、そして学力向上に役立てるための検査です。

○最新の心理測定学に基づいた理論である「**CHC理論**」を背景に作成されています。

①学習する上で必要な5つの認知能力を測定します。

※認知能力を「**思考力**」「**言語能力**」「**教的能力**」「**記憶力**」「**処理速度**」の5つの視点で測定します。

②「思考力」の特徴を詳しく分析します。

③算数・数学のつまずきを過去にさかのぼって把握できます（数的能力）。

④「学習に向かう力」についてのアンケートで行動面を振り返ることができます。

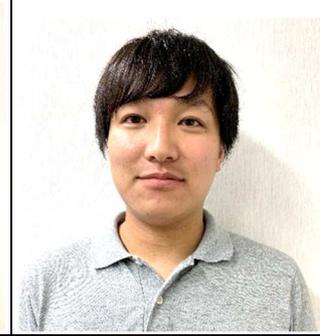
⑤個別に学習の仕方についてアドバイスが得られます。

⑥「認知・学力相関表」で「認知能力相応の学力が身に付いているか」が視覚化できます。

今後、研究所では、認知能力検査を生かした学習指導について研究を進めていきます。

令和2年度 三股町教育研究所 研究員

私たちは「文教みまた」の継承と発展のために、一生懸命頑張ります。

			
三股町教育委員会 園田 修司	三股小学校 上森 翔太	三股小学校 荒木 秀太	勝岡小学校 杉尾 育樹
			
梶山小学校 中野 一幸	宮村小学校 渡邊 彩香	長田小学校 濱口 周子	三股西小学校 高崎 雅士
			私たちは、令和2年度の研究員です。三股町の子どもたちの学力向上のため、毎週火曜日午後5時30分から中央公民館で研究会を行っています。どうぞよろしくお願いします。
三股西小学校 谷 あすか	三股中学校 森 瑞樹	三股中学校 黒木 慶太	
編集あとがき			
<p>昨年度は、「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」を目指して、タブレットPCの効果的な活用、そしてプログラミング教育について研究を重ねてきました。</p> <p>今年度は、児童生徒の実態を科学的、客観的に分析し、より一人一人に応じた学習指導を確立するために、認知能力検査を生かした学習指導について研究を進めています。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う臨時休業など、非常事態の下でも、児童生徒の学習習慣を確立するために、「テレビ会議システム Zoom」を活用したオンライン指導の在り方についても研究を進めています。これまでの研究と同様に、児童生徒の学習への主体性を育むねらいがあり、三股町が推進してきたICT機器の活用を基盤とする研究です。今後も三股町の先生方の御理解と御協力が得られると、心強いです。どうぞよろしくお願いします。</p>			

三股町教育委員会
主幹 長倉 修

ともしび 光り輝く灯火となり・・・

令和2年度、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校は、これまでになく児童生徒の「学びの保障」が問われているように思います。

小学校では新学習指導要領の完全実施、中学校においてもその移行期となったこの時期に、臨時休業で不足した授業時数をどのように確保するか、感染症対策とともに学校行事をどのように実施するかなど、三股町内の各学校においてもそれらは大きな課題であり、国や県、町の方針に沿って各学校はそれぞれに創意工夫を生かした対策を取り、様々な課題を克服してこられたと認識しています。



このような学校教育がこれまでに直面したことのない危機的な場面において、私たちは、「一単位時間の授業時間の重み」と「児童生徒一人一人に対する確実な学び」といったまさに学校教育の原点とも言えるべき事からの重要性に気付かされたのではないのでしょうか。

「ピンチはチャンス」という言葉をよく耳にしますが、私たちは、今一度、全ての児童生徒の「学びの保障」に向き合う必要があると考えます。三股町では、石崎教育長の指針の基に、各学校が今後の「学びの保障」を着実に進めていくための方策として、

- ① 「特別支援教育の視点」を生かした教育課程の編成・実施と評価
- ② 「一人一台の端末」をはじめとしたICT機器の活用

の二点を掲げ、次年度からの具体的な実践に向けた準備を進めているところです。

一点目の「特別支援教育の視点を生かした教育課程」とは、町内の各学校の教育活動を推進する基盤として、ア「児童生徒一人一人の実態やニーズを把握し、その持てる力を高めるために、適切な指導や必要な支援を行うこと」、イ「年齢や発達の段階に応じた指導・支援を行うこと」、ウ「幼児教育から小学校教育、小学校教育から中学校教育など、著しい環境の変化に全ての児童生徒がスムーズに適応できるよう指導・支援をつなぐこと」を位置付け、知育・徳育・体育のそれぞれの観点において各学校の実情に応じ、具体化した取組を行っていくようにするものです。この点においては、何よりも「児童生徒の的確な実態把握」が重要で、本年度、町教育研究所研究員の先生方による NINO(認知能力検査)に関する研究は、言い換えれば、児童生徒一人一人の「学び方」を把握するための実践的な研究であり、先行研究も少ない中で、児童生徒の学びの保障に向けた実態把握の中核となる研究に粘り強く取り組んでいただいたと考えます。

二点目の「一人一台の端末をはじめとしたICT機器の活用」とは、令和の日本型教育のキーワードである「個別最適な学び」を具現化するための有効な手段として、三股町がこれまでに取り組んできたICT教育関連の研究成果を基に各学校において、更に取組を深化させていくことが重要であると考えます。町教育研究所においては、オンラインによる学びの保障を軸に、今後の活用の可能性を探っていただきました。

コロナ禍における児童生徒の「学びの保障」という課題の解決、それは、従来の教育活動が存分に行えない状況において、進むべき道を模索しながら納得解を追究していく地道な取組だと考えます。その中において、町教育研究所研究員の先生方の熱い使命感と、経験値や新たなアイデアなどを総動員した粘り強い取組は、今後の三股町の教育の光り輝く灯火となり、各学校の実践を力強くリードしてくれるものだと思います。改めて、町教育研究所研究員の先生方の一年間の取組に深く感謝いたします。今後の更なるご活躍を期待いたします。

教研式 認知能力検査 NINOについて

本年度、勝岡小・梶山小・宮村小・長田小学校の3・4・5年生と三股中学校1年生で「教研式 認知能力検査 NINO」を実施しました（来年度以降、三股小・三股西小学校においても実施予定）。

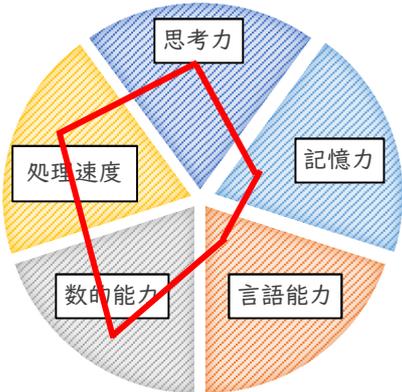
そこで、本研究所の学習指導法研究班では、認知能力に関する基本的なこと、認知能力検査 NINO に関することについて研究を進めてきました。そして、認知能力検査 NINO を実施した学校のデータを基に、認知能力の傾向を以下の5つのパターンに分類しました。

- ① 国語は得意、算数数学は苦手タイプ
- ② 算数数学は得意タイプ
- ③ 思考力が落ち込んでいるタイプ
- ④ 短期記憶が得意タイプ
- ⑤ 短期記憶が苦手タイプ

児童生徒のもつ認知能力の傾向が、この5つのパターンと、必ず一致するわけではありません。一つの解釈の仕方として、参考になれば幸いです。下記は、【算数数学は得意タイプ】です。

算数数学は得意 タイプ

認知能力



認知能力の特徴

- 数的能力をさらに伸ばすためには、言語能力の向上も必要。
- 記憶力が低いため、一度にたくさん のことを覚えるのが苦手。

学級で できること

- ◎ 算数・数学において、式の意味を説明させるような学習活動を取り入れる。
- 発問、指示を精選し、一度に記憶する情報量を減らす。
- 記憶力の向上のために、日記の宿題を毎日出す。
- 問題を解くときの時間配分の工夫をし、学習した内容をすぐ使えるようにする。
- 同じ時間を設定する中で、個別に解く問題量を選択できるようにする。
- 思考力を育むために、ペア活動や班活動を取り入れ、多様な意見を知る、比較場面を設定する。
- 記憶力を高めるために聴覚記憶と視覚記憶の両方を使って問題を提示する。（動画、具体物など）
- 帰りの会等で、次の日の準備物や要点をメモすることを日常的に行う。

個別指導で できること

- ◎ 数的能力を伸ばすために解法を説明させる問題に取り組ませる。
- 言語能力を高めるために、「説明にこの言葉を入れる」などの個別の課題を与える。
- 語彙力を高めるために読書などを宿題として出す。
- 記憶力を高めるために、覚えたことを活用したり、いろいろな覚え方に触れたりできる宿題を出す。
（算数読み声、漢字の小テストの活用、合体漢字、少ない情報を覚える宿題など。）

5つのパターンごとに、認知能力の特徴を分析しました。また、全体指導、個別指導において有効と考えられる主な学習指導法についても提案しています。5つのパターンについては、年度末の研究紀要にまとめ各学校に配付する予定です。

「三股町立小中学校」 YouTube アカウント開設しました！

研究所では、学校が新型コロナウイルス感染症の影響で、臨時休業になった際でも、児童生徒が学習する一つのきっかけを作りたいと考えました。そこで、オンライン学習研究班では、授業動画を作成し、YouTube アカウント「三股町立小中学校」を開設しました。

① 中学1年向け「正の数・負の数」



② 小学校全学年向け「なわとび名人を目指そう」



③ 小学校全学年向け「メイク10」



④ 小学校全学年向け「音楽遊び」



視聴方法

- ① 「YouTube」を開く。
- ② 「三股町立小中学校」を入力し、検索する。
- ③ 「三股町立小中学校」のアカウントを開き、動画の一覧から見たい動画を選択し、視聴する。

Zoomを活用して オンライン授業を実践しました！

オンライン学習研究班では、Web 会議のツールである「Zoom」を使って、オンライン授業を実践し、その可能性を探りました。以下は、オンライン学習研究班の研究員による実践報告です。

学校名	三股西小学校	学年	4年	実践者	谷 あすか
実践日	令和2年9月18日	教科名	国語・算数	単元名・題材名	
活用形態	教師のみ	教師+グループ 1台		教師+児童生徒一人 1台	
(実践内容)					
1. 児童用タブレットを使って(2人で1台)、Zoomの接続の仕方を学習する。 Zoomを活用して、「送られた画像を見て、俳句を作る」活動を行う。					
2. グループ毎に、校内の複数の教室に分かれて、それぞれ Zoomへの接続を行う。それぞれの教室で「平行や垂直になっている物探し」を行う。その後、児童に、Zoom活用についてのアンケートを行う。					

学校名	三股小学校	学年	4年	実践者	上森 翔太
実践日	令和2年 9月6日、7日	教科名		単元名・題材名	
活用形態	教師のみ	教師+グループ	1台	教師+児童生徒一人	1台
(実践内容)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学級通信にて、保護者へのアンケートを実施し、ミーティングに参加する日程を決定した。 2. 実際のミーティングの前に接続できるか確認するためにお試しミーティングを実施した。 3. 学校のタブレットを使って教室内でミーティングを実施し、接続の仕方を見童と確認した。 4. 画面の共有機能を活用して、宿題の丸付けを行った。 ブレイクアウトルームでグループトークを実施した。 ミュート機能を活用して一人一人が話す時間を設定した。 5. スピーカーの設定やカメラの設定の仕方について学級で指導した。(事後指導) 					

それぞれの家庭の
タブレットで実践!!

学校名	梶山小学校	学年	6年	実践者	中野 一幸
実践日	令和2年 6月3日、4日	教科名	音楽	単元名・題材名	
活用形態	教師のみ	教師+グループ	1台	教師+児童生徒一人	1台
(実践内容)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童用タブレットを使って(1人1台)、Zoom 接続テストを行う。 2. Zoom を活用して、校内で音楽の授業(リコーダーの演奏)を行う。 3. Zoom を活用して、校内で校長先生からのメッセージを聞き、1人1人、コメントを言う。 4. 学級通信で実践内容を知らせ、保護者への啓発を図る。 					
<p>テレビ・Web 会議ツール「Zoom」とは？</p> <p>Zoomとは、いつでも、どこでも、どんな端末からでも、Web会議を実現するクラウドサービスで、簡単に言えば、複数人での同時参加可能な「ビデオ・Web 会議アプリケーション」です。 通常はひとつの場所が集まって実施する必要のあるミーティングがオンライン上で可能になることから、ビジネスシーンで多く活用されています。PC、スマートフォン、タブレットなど、現在一般的なデバイスであれば Zoom をインストールできます。マイクやカメラが搭載されていない端末でも、汎用品の外部機器を接続すれば電話会議、ビデオ会議が可能です。また、Windows、MacOS、Android、IOS など、あらゆる OS に対応しているのも特徴で、Zoom の利便性を高めています。今後、新型コロナウイルスの第2波がおこっても、子どもたちとつながる手段として Zoom はとてもよい手段だと思います。そこで、総合的な学習の時間に、Zoom の学習をしました。子どもたちは、You Tuber になったようで楽しく活動していました。</p>					
 <p>子ども達は「オンラインゲーム」で慣れているせいか、最初、私よりもわかっていてスムーズに操作していました。こまっている私に教えてくれる子どももいました。「いいねえ!」</p>			<p>テレビ・Web会議ツール「ZOOM」第2弾!</p> <p>今回は、校長先生にも参加していただき、「六年生として・卒業へむけて」のお話をさせていただきました。画面を通して、子ども達は真剣に聞いていました。話を聞いた後、一人一人、コメントを言いました。校長先生も、コメントを聞いてとても喜んでおられました。</p>  <p>六年生として、お手本になれようがんばります!</p> <p>六年生のみなさん、3つのことをがんばってほしいです。「①話を集中して聞く②やさしくする③言葉づかい」の3つです。梶山小の(*^_^*)としてがんばりましょう!</p>		
<p>実際に配付した学級通信</p>					

☆成果☆	★課題★
<p>☆保護者・児童共に、Zoom に楽しんだり、可能性を感じたりする姿が見られた。</p> <p>☆実際に Zoom を活用してみたことで、コミュニケーションを円滑にするために、必要な指導事項が見えてきた。(聞こえたら合図を送る、自分が話すとき以外はミュートにしておくなど。)</p>	<p>★保護者が隣にいないと、機器を扱えない児童も多数いる。</p> <p>★教師が、一人一人のトラブルに対応することが難しい。 →トラブル対応のマニュアルなどを事前に配付しておくといののではないか。</p>

三股町校長会（三股西小学校校長）

会 長 内村 浩二郎

38年間を振り返って



令和元年度から新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し、全国の小中学校が一斉に臨時休業になるなど、これまでの日常が大きく変わってしまいました。令和2年度もその影響を受け、都城市・三股町の小中学校では、冬休みに引き続き臨時休業となりました。これまでも新型インフルエンザや口蹄疫、新燃岳の噴火など、日常を変えてしまうような出来事に対応をしてきましたが、これほどの影響を与えるものはありませんでした。

今回、研究所だよりへの原稿依頼を受けて、それなりの文章を書きたいと考えてはみましたが、なかなかうまくいきません。新型コロナウイルス感染症から昔のことを思い出した流れで、教諭時代のことを浮かんだまま書いてみることにしました。

1校目の一ヶ岡小学校で教職に就いたころは、詰め込み教育と言われた知識偏重型の教育方針からの転換期で、ゆとり教育のはしりでした。校時程の中にゆとりの時間が分散して位置付けられ、高学年には創意の時間（ゆとりの時間）というものもありました。このころの大きな変化には、初任者研修の導入や生活科の実施がありました。低学年から社会科と理科がなくなり、新しく生活科が始まるという大きな変化だったので、指導計画やマップの作成などについて先進校を視察したり資料を集めたりしながら、学校全体で地域の素材を生かした生活科の準備を進めました。

2校目の夏尾小学校で取り組んだ複式学級の指導は、その後の授業づくりにおおいに役立ちました。また、教務主任として教育課程の編成にかかわったときには、土曜休業日への移行という大きな変化がありました。月1回から2回、そして完全な週5日制へと、行事の見直しや精選などについてたくさんの情報を収集しながら取り組みました。学校の教育課程や校時程の工夫次第で移行できるという先進校の報告を怨めしく思ったこともありました。

3校目の高崎小学校での大きな変化は、総合的な学習の時間の創設でした。教科書もない学校の特色を生かした学習を105時間から110時間展開することになり、何をどうやっていくのか頭を抱えました。県外の先進校などの視察をしながら、「高崎川から世界へ」の柱で、各学年の学習のまとまりを考えていきました。「世界へ」としたのは、国際理解教育（英語教育）を意識したものでした。とても難しく感じながらも、何もないところに知恵を出し合いながら創造していく楽しさも味わうことができました。

他にも、学級会35時間と学級指導35時間をまとめる形で、現在の学級活動35時間になったり、TTや少人数指導が始まったりするなど、さまざまな変化があり、その都度、みんなで知恵を出し合いながらなんとか進んできたことを懐かしく思い出します。すべてがうまくいってはいませんが、それらの経験が自分の教職生活を支えてくれたように思います。

現在、研究所においては、児童生徒一人一人の認知能力に着目した学習内容と学習方法や、オンライン学習の在り方についての研究に取り組んでおられます。今、教育界に求められている大きな課題であると思います。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、内容も時間も計画どおりの十分な研究に取り組めていないかもしれませんが、研究所の研究の成果が今後の学校教育の大きな方向付けになると思います。なにより、時間外に集まり、知恵を出し合いながら研究に取り組んだことが、研究所の先生方自身のこれからの教職生活を支えていこうと思います。

最後に、38年間を振り返ってみると、もやもやが残っていることもあります。「『新しい学力観』という言葉で、これまでの指導は古くてよくないものと感じてしまった時代があったこと。」「1980年度からのゆとり教育の流れで、2002年度に施行された学習指導要領による教育を受けた子どもたちが、なんの責任もないのに『ゆとり世代』というレッテルを貼られてしまったこと。」などです。一人の教員がどうこうできるものではありませんが、時代時代に求められるものや課題に対して、目先の真新しさだけを追いかけず、何を変えていくのか、何を大事にしていくべきなのかを、しっかりと考えていくことが大切だと思います。

まとまりのない文章となりましたが、三股町教育研究所の更なる研究の充実を期待して終わりいたします。

「令和2年度 三股町教育研究所 研究発表会」を終えて

令和2年12月3(木)に、三股町中央公民館第1研修室において、「令和2年度 三股町教育研究所 研究発表会」を開催しました。今年度は、研究主題を「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」、副題を「児童生徒一人一人に応じた学習指導法の工夫改善を通して」として研究を進めてきました。

学習指導法研究班では、認知能力に着目し、その傾向から、5つの認知能力パターンに分類しました。また、パターン毎に、学級における全体指導や個別指導の在り方についても提案しました。

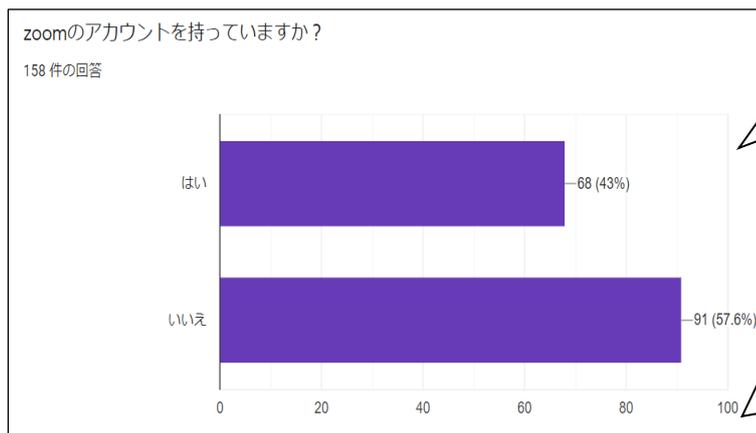
オンライン学習研究班では、コロナ下においても児童生徒の学習機会を保障できる可能性として、Zoomを活用した授業やYouTubeを活用した動画教材の作成に取り組みました。

今後、より多くの学校でNINOが実施されることやTPCが児童生徒一人一台ずつ支給されることが予定されています。三股町の先生方がそれらをより効果的に活用できるように、今後も意義のある研究を進めていきたいと思っています。

【今年度の研究の概要】

<p>学習指導法研究班</p> <p>研究内容</p> <p>(1) 認知能力検査に関する研究 (2) 児童生徒一人一人の実態をとらえるための手立て (3) 実態に対する指導・支援の具体化</p>	<p>学習指導法研究班</p> <p>(1) 認知能力検査に関する研究</p> <p>認知能力とは</p> <p>すべての教科の学習に必要となる 教科横断的・問題解決的の力</p>	<p>学習指導法研究班 (1) 認知能力検査に関する研究</p> <p>記憶力 覚える 思い出す力 言語能力 語彙 文の構成 数的能力 計算 数学の文章題</p> <p>処理速度 速く正確に 解く力 思考力 推理を働かせて 問題を解く</p> 
<p>学習指導法研究班</p> <p>(3) 実態に対する指導・支援の具体化</p> <p>把握した児童の実態</p> <p>学級での全体指導</p> <p>個別指導</p>	<p>学習指導法研究班 (3) 実態に対する指導・支援の具体化</p> <p>国語は得意 算数は苦手</p> <p>学級での全体指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 立式の意味や計算の順序を説明させる活動を設ける。 図やグラフを言葉で説明する、まとめ直す活動を設ける。 <p>個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな分野の文章を読ませる。 計算の順序や意味を1つずつ克服する。 	<p>学習指導法研究班 (3) 実態に対する指導・支援の具体化</p> <p>短期記憶が苦手</p> <p>学級での全体指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 覚えるときに多くの感覚を用いる(見る、聞く、書く等)。 発問、指示を精選し、一度に記憶する情報量を減らす。 <p>個別指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に必要な知識が定着したり、思い出したりできるような宿題を出す。
<p>NINOの結果を基に、傾向ごとに、5つのパターンに分類し、指導方法について考えました。</p>		
<p>オンライン学習研究班</p> <p>研究内容</p> <p>① ZOOMアカウントの取得の啓発 ② ZOOMを使用した実践事例集の作成 ③ 家庭向けのZOOMに関する資料の配付 ④ 学習用動画教材の作成</p>	<p>オンライン学習研究班</p> <p>ZOOMに関する実践研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大人数でも使用可能 ○ 機能が豊富 ○ 動作が安定している 	<p>オンライン学習研究班</p> <p>③ 家庭向けのZOOMに関する資料の配付</p>  <p><small>【Zoomとは】 簡単に済むと誤入力でミスが起きることを防ぐため、アカウントを取得することで、「ミーティング」のURLを通知する必要がある。また、アカウントがなくても、PCをネットワーク経由で接続すれば、「ミーティング」に参加することが可能。</small></p> <p><small>本年度、三股町教育研究所では、コロナウイルスによる臨時休校の対応として、児童生徒の学習機会を確保する観点から、児童生徒の学習支援の観点から「Zoom」を活用した実践的指導のあり方について研究している。</small></p>
<p>オンライン学習研究班</p> <p>ウ 学校内でのミーティングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 送った写真から俳句を作る ○ 平行と垂直を見付ける活動 ○ 円を見付ける活動 <p>※ 4年生から1年生へ指導(実施予定)</p> 	<p>オンライン学習研究班</p> <p>動画教材の作成</p> 	<p>オンライン学習研究班</p> <p>④ 学習用動画教材の作成</p> <p>ア 算数 メイクテン形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人 黒板を使用 内容 数字カードと加減乗除を使って答えが10になる式を作る遊びを紹介 
<p>Zoom を活用した授業や YouTube を活用した動画教材の作製に取り組みました。</p>		

Zoomに関するアンケートのご協力ありがとうございました！！



三股町教員 ZOOM アカウント保有率

43%

「いいえ」と答えた方で多かった意見

- これから必要になると思うが、作成の方法が分からない。
- これから方法を勉強したいので研修があるとうれしい。

Zoomに関するアンケートに御協力いただきありがとうございました。コロナ渦における児童生徒の学習の機会を保障する一つ的手段として、オンライン学習の研究を進めてきました。実践を進める中で、児童生徒、保護者、教員のコンピュータリテラシーを高める必要性や簡単に動画を撮影する方法の提案など、新しい課題も見えてきました。

今後、児童生徒用タブレットPCの拡充により、より効果的な活用方法が期待されます。三股町の教育の充実のために、今後とも御意見、御協力をよろしくお願いします。

《 一年間を振り返って 》

研究指導員 園田 修 司

本年度は、研究主題「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」として、認知能力調査を活用した学習指導の在り方とオンライン学習に関する研究に取り組んできました。

まず、学習指導法研究班は、令和3年度から町内の小中学校に取り入れる認知能力検査NINOに関する研究に取り組みました。その検査結果を学習指導や個に応じた指導にどのように生かすことができるかについて考察し、「国語は得意、算数は苦手タイプ」「算数数学は得意タイプ」「思考力が落ち込んでいるタイプ」など、5つのタイプについて「学級でできること」と「個別指導でできること」について手立てをまとめました。また、オンライン学習研究班では、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休業の際に、児童生徒と連絡を取るとともに学びの保障の一つとなるために、「Zoomのインストールマニュアルの作成」と「学習用動画教材の作成」に取り組む各学校の先生方に情報発信しました。1月の2度目の臨時休業の際は、多くの先生や児童生徒が活用したようです。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、三股町教育研究所でも開所式の中止に始まり、研究時間や研究会回数の削減となり、さらに検証授業も実施することができませんでした。そのような制約された中での研究でしたが、10名の研究員の研究に対する真摯な取組みにより大きな成果を挙げることができました。これも、研究所を支えていただいた校長先生方をはじめ、関係各位の皆様方のご理解とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、三股町教育研究所でも開所式の中止に始まり、研究時間や研究会回数の削減となり、さらに検証授業も実施することができませんでした。そのような制約された中での研究でしたが、10名の研究員の研究に対する真摯な取組みにより大きな成果を挙げることができました。これも、研究所を支えていただいた校長先生方をはじめ、関係各位の皆様方のご理解とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。



研究員生活を振り返って

昨年度末、学級の子どもに会えず、空しい気持ちになったことを鮮明に覚えています。本年度の臨時休校では、数人の学級の子どもと Zoom で学習することができて、研究してよかったと思いました。2年間で貴重な機会や経験をさせていただきました。研究所で学んだことを、これからの教員人生に生かしていきます。

三股小学校 上森 翔太

私は、オンライン研究班の一員として Zoom の使い方を研究したり、動画撮影をしたりしました。子どもたちが学校に来られない日々が続く、研究を進めながらオンライン学習の必要性を強く感じました。今回の研究を自分自身のスキルの一つとして活用しながら、今後さらにそのスキルを高め、町内の先生方に広めていきたいと思いました。

三股小学校 荒木 秀太

教育研究所では初めて取り組む認知能力について担当しました。この先、客観的につかんだ児童の実態をもとに、子どもたちの特性に合わせた学習指導ができるようになると思うとワクワクします。そんな、みまたん子の未来を明るくするような研究の土台づくりに参加できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

勝岡小学校 杉尾 育樹

「努力を惜まずベストを尽くす」をモットーに研究所研究員として取り組ませていただきました。1年間を振り返ってみると、よい機会を与えていただいたと思いました。町内の先生方に刺激をもらいながら、毎週、新たな取組をすることができました。今では、動画撮影や Zoom ミーティングでよい経験ができました。ありがとうございました。

梶山小学校 中野 一幸

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、半分の時間で研究を進めました。限られた時間の中で「NINO」について学びを深め、一つの検査から把握できる情報の多さに驚きました。園田先生や所員の先生方等、たくさんの方々にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。2年間ありがとうございました。

宮村小学校 渡邊 彩香

今年度、研究員に任命され、最初は戸惑いもありましたが、先生方と共に活動していくことができました。コロナ禍において、どのように研究を進めていくかという課題に直面しましたが、「認知能力」について知る良い機会をいただきました。次年度も日々の授業に役立つ研究として、本年度の取り組みを活かせたらと思っています。

長田小学校 濱口 周子

研究所研究員として、2年間、三股町の研究に携わらせていただきました。TPC の効果的な活用やプログラミング教育、認知能力を踏まえた学習指導法など、教員として新しい知識やスキルを身に付けることができ、貴重な経験となりました。三股町の恵まれた研究環境・教育環境にたいへん感謝しています。ありがとうございました。

三股西小学校 高崎 雅士

今年度は、児童の学習機会の保障について考えさせられました。Zoom を活用したオンライン学習について研究を進める中で、児童や保護者、そして私たち教員が時代の変化に対応し、様々なメディアと向き合っていく必要性を実感しました。来年度も研究所で学んだことを、先生方に活用していただけるように努めて参ります。

三股西小学校 谷 あすか

研究員を2年間務めさせていただき、大変多くのことを学ぶことができました。町内の小中学校から10名の先生が集い、三股町の研究をすすめることができ、有意義な時間でした。改めて時代の変化に対応していかなければならないということを感じました。園田先生をはじめ、研究所の先生方、本当にありがとうございました。

三股中学校 森 瑞樹

今年度、研究員に任命され、最初は戸惑いもありました。しかし、研究所の先生方とともに協力して、毎週充実した活動ができました。

特に「認知能力検査 NINO」について、深く知り、よさを知った機会になりました。

園田先生をはじめ、研究所の先生方にお世話になりました。ありがとうございました。

三股中学校 黒木 慶太